

●ツクツクボウシタケ (*Isaria sinclairii*) とは

ツクツクボウシタケはセミの仲間であるツクツクボウシの幼虫に寄生する冬虫夏草の一種で、不完全菌(アナモルフ菌)です。稀にアブラゼミの幼虫にも寄生する事もあります。宿主であるセミの幼虫は菌糸で覆われ、子実体(シンネマ)が分岐する事が多く、先端に粉上の分生子を形成します。

ツクツクボウシタケの培養液からは、免疫抑制効果を示す「ミリオシン」という成分が分離されました。そして、この物質を基に「フィンゴリモド」という物質が合成され、臓器移植時の拒絶反応の抑制や自己免疫疾患などの治療薬として利用されています。

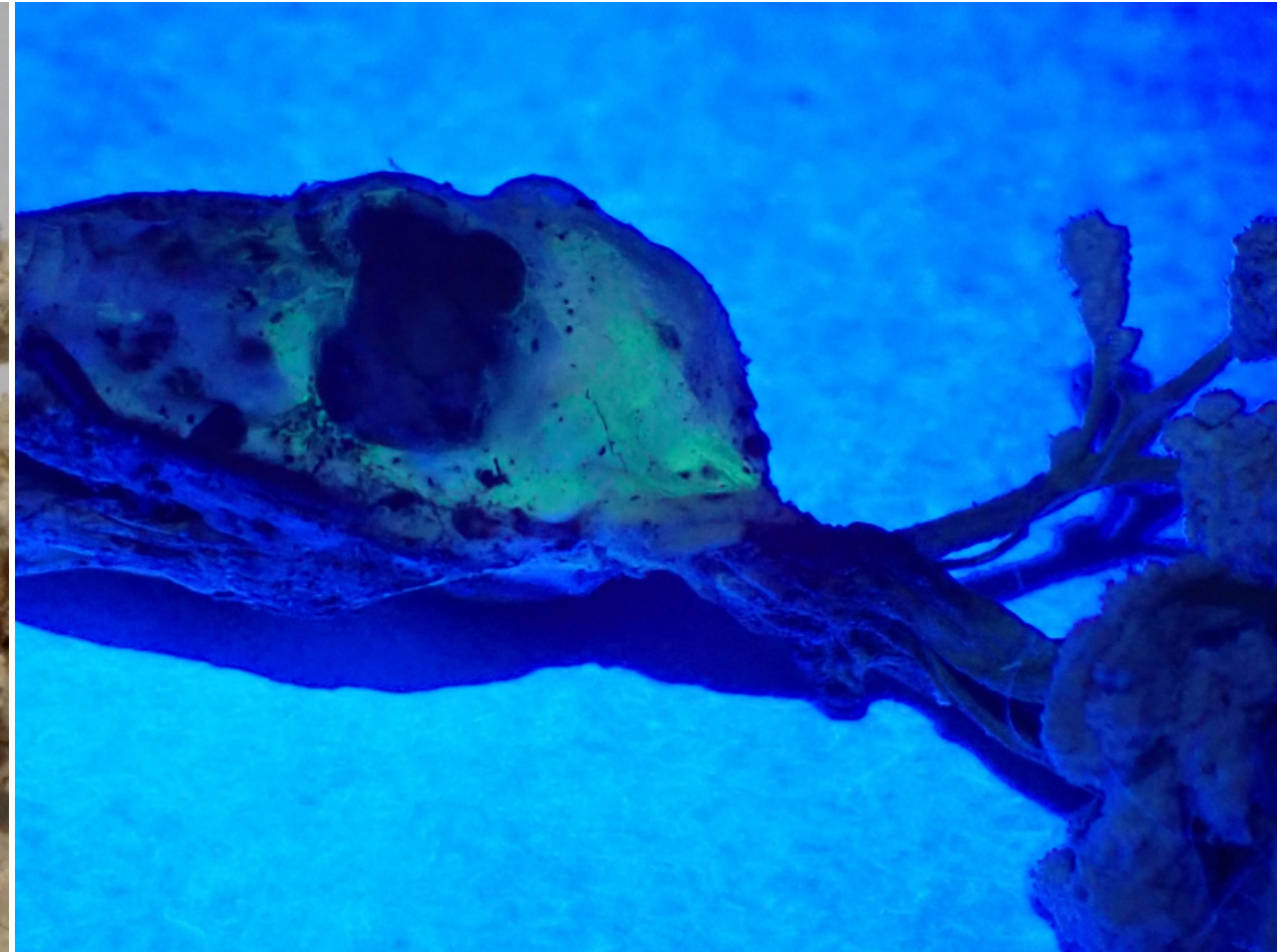
●ツクツクボウシタケに紫外線LEDランプを当ててみると…



ツクツクボウシタケに紫外線LEDランプ(375nm)を当ててみると、頭部の辺りの菌糸が緑色に発光しました。いわゆる「蛍光」というヤツです。頭部以外の菌糸や子実体(分生子を形成する部分)には発光は見られませんでした。

菌類の中には、菌糸が蛍光を発するものがある事は古くから知られており、例えば、ナラタケの菌糸は非常に強い緑色の蛍光を発する事が知られています。

●ツクツクボウシタケなぜ光る？－わたしには全くわかりません…－



ツクツクボウシタケの菌糸が発光する(蛍光を発する)という報告は、私が知る限り聞いた事はありません。今回、手持ちの10個の標本について紫外線LEDランプを照射してみたのですが、蛍光を発したのは2個だけでした。菌糸の成長状態や標本の鮮度などが影響しているかもしれませんので、来年の夏に改めて新鮮な個体を採取して試してみたいと思います。現在、菌類の菌糸が発光するメカニズムの研究が多方面で進められていますが、良く分かっていないのが実情です。実に不思議な現象だと思います。